

# MAFF ナビ いわて

東北農政局 岩手県拠点  
令和7年1月

本紙は、農業や食料に関する情報をデータで提供し、農業関係者から消費者まで、多くの皆さんが農産物の生産・消費に興味を持ち・考えていただく材料として発信しています。

農林水産省では、「みどりの食料システム戦略」を策定し、その実現に向けて環境負荷低減に取り組んでいるところです。

今回は、「環境を考える」をテーマとして、有機農業に関するデータ及び有機栽培に取り組む若手農業者を紹介します。

本紙が、環境について考える一つのきっかけとなれば幸いです。

## 1 有機農業・有機食品に関する消費者意識調査の結果（令和5年度）

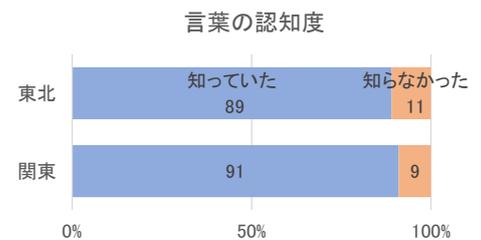
本調査は、消費者を対象に「有機農業・有機食品に関する意識」を調査したもので、本紙では、東北と関東の結果を取り上げました。

これは、食料供給基地と言われる東北地域と比較的消費量の多い関東地域の消費者で、どの程度意識に違いがあるかを併せてみることにしたためですが、大きな差はありませんでした。

### （1）有機の認知度・イメージ

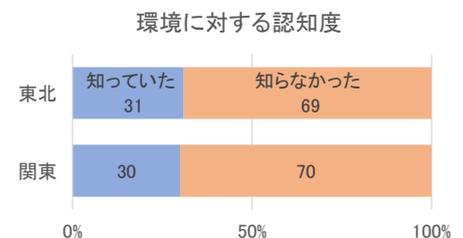
#### ① 言葉の認知度

「有機」や「オーガニック」の言葉の認知度は、東北、関東ともに9割と高い結果となっています。



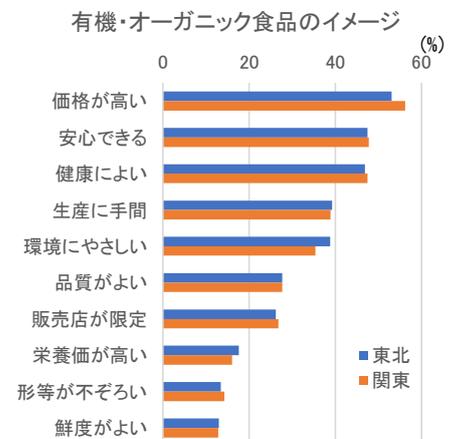
#### ② 環境への影響に対する認知度

有機農業が生物多様性の保全や地球温暖化の防止に効果があることの認知度は、東北、関東ともに3割と低い結果となっています。



#### ③ 有機・オーガニック食品のイメージ

有機食品やオーガニック食品に対する消費者のイメージは、「価格が高い」が最も多く、次いで「安心できる」「健康によい」となっています。



資料:有機農業・有機食品に関する消費者意識等(令和5年12月)

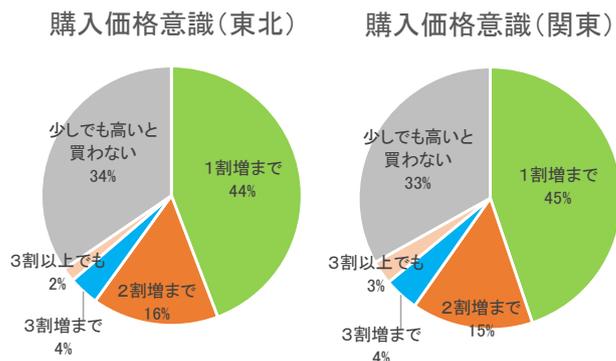
上記の結果から、「有機」や「オーガニック」という言葉の認知度は高く、食品に対する安心や健康のイメージが高いようですが、有機農業が環境にやさしいというイメージは低いようです。

これまで、環境面に対する情報発信が少なかったことが要因と考えます。

## (2) 購入

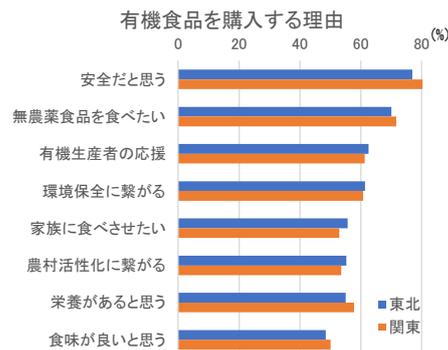
### ① 価格

前項で、有機食品やオーガニック食品については、「価格が高い」とのイメージを持つ消費者が多い結果となっています。実際に購入する場合、通常の食品と比較し、どの程度まで高くても購入するかの度合いをみると、東北・関東ともに1割増までが4～5割、2割増までが1～2割となっています。



### ② 購入する理由

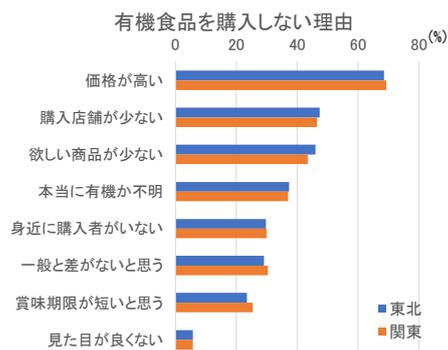
有機食品購入者の購入理由は、「安全」や「無農薬」を意識したものが多く一方で、「生産者の応援」や「農村活性化」を理由とするものも多く、消費者が生産現場を思いやる意識も伺えました。



### ③ 購入しない理由

有機食品非購入者の購入しない理由は、「価格が高い」が多くなっています。消費拡大には、有機栽培は労力がかかるなど生産現場の状況を消費者に理解してもらうことの必要性を考えさせられます。

一方、「見た目が良くない」ことを理由に購入しない消費者は1割未満と少ない状況でした。



資料：有機農業・有機食品に関する消費者意識等(令和5年12月)

## 2 世界の有機食品市場

様々な研究等から、有機農業は生物多様性の保全や地球温暖化防止等に寄与すると公表されています。また、世界の有機食品売上は増加傾向をたどっています。

国民1人あたりの年間有機食品消費額を国別にみると、スイス、デンマーク、オーストリアの順に消費額が大きく、日本は少額となっています。

世界の有機食品売上の推移



国別1人あたりの年間有機食品消費額 (2022年)



予告：2月号では、有機食品消費金額の高いスイスの状況を間近で見てきた「オネットマーケットプラン株式会社」の小野節子さんを取材する予定です！

### 3 環境に配慮した農産物生産と農村振興の取組

#### (1) 三科 宏輔 (釜石市) ～未来の食料のために環境を考えた食料生産～

令和4年4月に地域おこし協力隊として釜石市に着任した三科宏輔さんは、自然循環の中での農産物生産や農村生活の情報発信に取り組んでいます。

三科さんは、学生時代の海外住居建設活動による他国での生活や前職の経験から、それまであまり意識することの無かった環境の変化が未来の食に影響することを意識するようになり、「当たり前と思っている食の在り方や生き方を見直すことが大切。」との思いから、協力隊として地域資源を活用した暮らしの情報発信等を行うことを目的に釜石市に移住しました。

トマトが大好きな三科さんは、トマトの自然栽培やトマトジュースの商品化を行っているほか、土づくりから自然のサイクルにこだわった畑で企業研修や小学生への食育活動を行っています。

また、その活動をユーチューブで配信（農業系ユーチューバー）しています。「メッセージをどう伝えるか。」「情報発信の場をどう増やしていくか。」が課題と考えているようでした。

生きる力を感じさせる三科さんの活動を応援しています。



三科宏輔さん



企業研修での食育活動



YouTube による情報発信

#### (2) 伊藤 将太 (大槌町) ～耕作放棄地は化学肥料・化学農薬不使用の栽培に適している～

令和3年12月に地域おこし協力隊として大槌町に着任した伊藤将太さんは、農村で増加する耕作放棄地を活用した化学肥料・化学農薬不使用の農産物生産や農村活性化に向けた移住者支援に取り組んでいます。

伊藤さんは、都市から農村への移住者コンサルの活動を協力隊として行うことを目的に大槌町に移住しました。近所から2aの耕地を借りて野菜栽培を始めたところ、増加している町内の耕作放棄地を解消したいと思うようになり、耕作放棄地を活用した化学肥料・化学農薬不使用の農産物生産に取り組み始めました（現在の栽培面積：1.5ha）。

令和5年5月には、「耕作放棄地は有機栽培に適している。耕作放棄地で作った化学肥料・化学農薬不使用の野菜を食べるだけで耕作放棄地の解消につながる。」をモットーに「さともり株式会社」を起業し、町内外の仲間に働きかけ規模拡大を進めています。また、移住当初の活動目的である都市からの移住促進サポートも引き続き行っています。

農村活性化を目指し奮闘する伊藤さんの活動を応援しています。



伊藤将太さん



移住体験ツアー



農作業体験



農産物

### (3) 有機農産物に対する学生と生産者・販売業者の意見交換会（盛岡大学）

盛岡大学栄養科学部（教授：村元美代）の講義の一環として、令和7月1月20日に、有機農産物生産者（高橋勝明）と同農産物販売業者（小野節子）を招き、有機農産物に対する意見交換を行いました。

同学部は、健康、栄養、食に関する高度な知識と技能を取得し、人々のライフスタイルや健康状態に応じた栄養管理・栄養指導を行える専門家の育成等を行っており、今回は食に関する講義（地域食材資源論）の一環として行われました。



ナイスなアイデアを発表

まず始めに、生産者の高橋さんから「農産物の生産と環境への影響」について、販売業者の小野さんから「有機農産物の消費者への理解醸成」について講義を受けた後、日本政策金融公庫や東北農政局の若手職員が参加し、5グループに分かれて有機農産物に関する討論を行いました。

学生の皆さんからは、「有機農産物の特徴は何か?」「どのような方法でPRすれば消費者に買ってもらえるか?」等の視点から様々な意見やアイデアが出され、生産者の高橋さんや販売業者の小野さんからは「若者でないと考え付かないアイデアが多く、すごく参考になる。こういう機会は大切。」との感想をいただきました。



熱心に意見を整理

また、村元教授からは、「学生のみんながイキイキとした表情で発言していた。食べ物や環境について考える幅が広がったのではないか。」との感想が寄せられました。



小野さんが助言



高橋さんが助言



意見交換の様子  
(第2グループ)



意見交換の様子  
(第3グループ)

**本紙は、将来の農業の担い手、労働力不足解消に向けた取組について考える材料としてご活用ください。また、当拠点では農林水産データの活用支援を行っています。遠慮なくご相談ください。**

#### ～ ご案内 ～

##### <みどりの食料システム戦略>

食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現する「みどりの食料システム戦略」に取り組んでいます。

農林水産省 URL

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/index.html>

##### <総務省「地域力の創造・地方の再生」>

地域おこし協力隊～移住・地域活性化の仕事へのチャレンジを支援します！

総務省 URL

[https://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/jichi\\_gyousei/c-gyousei/02gyosei08\\_03000066.html](https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/02gyosei08_03000066.html)

##### <ニッポンフードシフト>

「食」から「農」について自ら考えていただくことで、将来の「食」「農」を守っていく取組です。

主に、次世代を担う若い世代をターゲットとして情報を発信しています。

ニッポンフードシフト URL

<https://nippon-food-shift.maff.go.jp>



東北農政局岩手県拠点  
岩手県盛岡市盛岡駅前北通1-10  
019-624-1125

MAFF